

報 告 書

(委 員 会 名) 総務民生常任委員会

(視 察 日) 令和 6 年 10 月 17 日 (木)

(視察先都市名) 鹿児島県出水市

(視 察 項 目) 地 域 新 電 力 (自 治 体 新 電 力) に
よ る 取 組 と 計 画 に つ い て

(内 容) 報告者 豊田耕一

(概要)

出水市は、令和 4 年 6 月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、持続可能な社会づくりの取組として、平時の温室効果ガスの排出抑制に加え、防災拠点で災害時にエネルギー供給の継続性を確保するため、防災拠点である市役所本庁舎に太陽光発電システムと蓄電池を導入し、温室効果ガスの排出抑制とレジリエンス強化を図っている。

現出水市長のマニフェスト「エネルギーの地産地消」や出水市政策経営部・企画政策課長（いずみみらい現社長）はじめ市の職員の思いもあり、地域エネルギー会社「株式会社いずみみらい」を令和 5 年 5 月に設立。「株式会社いずみみらい」の資本金は 980 万円、出資割合は、出水市が 51%、パシフィックパワー株式会社が 45.9%、株式会社鹿児島銀行が 3.1%で、主に電力販売事業及びその仲介・取次事業、発電事業、送配電事業を行っている。

電力販売事業においては、出水市内の 48 施設（高圧）へ地元電力会社より 2～3%安価な料金で電力を提供して、初年度は年間約 3000 万円の出水市の電気料金削減に成功する。また、「株式会社いずみみらい」の初年度決算では、純利益 1888 万円を確保して、今後の業績も堅調に推移することを見込んでいる。

(考察・感想)

燃料価格の高騰等により経営が立ち行かない新電力会社もある中、エネルギーの地産地消を推進するために地域エネルギー会社を設立、運営して実績を上げていることを評価する。経営等のリスクは否定出来ないが、これからの自治体運営においては「株式会社いずみみらい」のようなチャレンジングな取組も必要であると捉え、持続可能な社会づくりに向けた出水市の取組を敦賀市に取り入れられないか、しっかり研究していきたい。

※同取組における主要発電施設の「環境センターエネクリン北薩」を視察

(概要)

敦賀市の既存の清掃センターは、平成 4 年度に供用開始し延命化を図りながら稼働しているが、老朽化が進んでいる状況となっている。そのため、敦

賀市と美浜町にて共同で新清掃センターを整備し、令和 9 年 3 月 1 日の供用開始を目指している。

敦賀市の新清掃センター整備の参考にするため、鹿児島県出水市の環境センター エネクリン北薩の施設内の見学に加え、ごみ処理の流れや、蒸気タービン発電機等の設備の説明を受ける。

敦賀市と出水市の新清掃センターは、どちらも連続焼却式焼却炉（ストーカ炉）で、処理能力は敦賀市が 96 トン/日（48 トン/日×2）に対して、出水市が 88 トン/日（44 トン/日×2）と同規模の施設で、どちらの施設もごみ焼却時に発生する熱を利用して発電を行い、作られた電力は施設内で利用される。

ただ、事業主体は出水市が北薩広域行政事務組合（構成は阿久根市、出水市および長島町）に対し、敦賀市は、公共が資金調達して設計・建設・維持管理・運営までを一括契約し、民間を活用する DBO 方式（公設民営方式）を採用している。

（考察・感想）

今回、令和 9 年 3 月 1 日の供用開始を目指す敦賀市の新清掃センターを知る上で、同規模の環境センターエネクリン北薩の現地視察を行ったことは、とても参考になったが、敦賀市の新清掃センター整備については、既に契約を締結しており、起工式を終え工事に着手している状況であるため、今回の視察では、新清掃センター完成後の市民理解を得る活動、とりわけ施設を紹介する動画や、見学コース等の先進事例を学んだ上で、敦賀市の現清掃センターや新清掃センターが、より市民に愛される施設となるよう提言に繋げていきたいと考える。

（各委員所感）

- ・エネルギーの地産地消を推進するために株式会社いずみみらいのようなチャレンジングな取組は敦賀市でも検討必要。

- ・株式会社「いずみみらい」は、再生可能エネルギーの地産地消を目指して、市内の公共施設 48 施設に電力を供給したり、公共施設の敷地や屋根に太陽光発電システムを設置し、市に売電したりしている。その中核を担っているのが出水市。利益を上げており、今後の発展も見込めるという。敦賀市もこうした起業的、冒険的な取り組みに挑んでもらいたいと思う。議会としても、可能性を探っていききたい。

- ・株式会社「いずみみらい」は、再生可能エネルギーの地産地消を目指して、市内の公共施設 48 施設に電力を供給したり、公共施設の敷地や屋根に太陽光発電システムを設置し、市に売電したりしている。その中核を担っているのが出水市。利益を上げており、今後の発展も見込めるという。敦賀市もこうした起業的、冒険的な取り組みに挑んでもらいたいと思う。議会としても、可能性を探っていききたい。

- ・自然環境や歴史的資源をフル活用することに着目した大切な取り組みだと感じた。今後もしっかりと調査したい。

- ・子供達にも親しみやすく分かりやすいような見学ホールがあり、敦賀市の新清掃センターも子供から大人まで理解され親しまれる施設となることを期待する。